

在圃性が優れ、寒さによる傷みが少ない！

(カネコ交配)

ハクサイ

おもむき

Chinese Cabbage, Omomuki Hybrid



カネコ種苗株式会社

TEL. 027(251)1611(代)

在圃性が優れ、寒さによる傷みが少ない!

(カネコ交配) おもむき

Chinese Cabbage, Omomuki Hybrid

●特 性●

- (1) 適作型
中間地、暖地の1~3月上旬収穫に向く黄芯系晩生品種です。露地栽培からマルチ栽培まで幅広く対応します。
- (2) 耐病性
根こぶ病耐病性が優れるので、発病の恐れがある圃場でも安心して栽培できます。べと病、菌核病につきましては通常の防除を行ってください。
*根こぶ病につきましては、地域により異なる種類のレースがあり、発病する可能性もありますのでご了承ください。
- (3) 耐寒性、在圃性
収穫期を迎えても球色の色あせや球頭部の傷みが少なく、耐寒性が非常に優れます。また、収穫期後半になっても球内の退色と芯上がりが遅いため、在圃性が優れます。
- (4) 生理障害耐性
芯腐れやごま症等、球内部の生理障害の発生が非常に少ない品種なので、加工向けとしても最適です。
- (5) その他
葉色、球色共に極濃緑色の品種です。球形は尻張り、胴張りが優れるバランスの良い形に揃い、箱詰め作業性が優れます。
外葉が暴れる品種ではないので、結束作業性も優れます。

●栽培作型●

	8	9	10	11	12	1	2	3
中間地	○	×					▨	
		○	×					▨
暖地		○	×				▨	
		○	×					▨

○ 播種期 × 定植期 — 生育期 ▨ 収穫期

■耐病性品種ラインナップの充実化■

弊社の「菜時黄(さいじき)」、「黄将(きしょう)」とあわせることで、根こぶ病耐病性3品種での秋冬作りレー栽培が可能になりました。

※収穫時期の目安(関東中間地標準)

	11	12	1	2	3
菜時黄	●				
黄将		●			
おもむき			●		

●栽培要点●

- 播種 / 定植時期について
2月収穫向けの従来品種である「勝黄」や「黄望峰90」と比べて、生育後半の結球がゆっくり進むのが特徴です。無理な遅まき、遅植えは重量不足に繋がりますので注意してください。また、老化苗の定植も品質低下や小球化を招きます。

■越冬どり作型の注意点■

- ① 収穫時期のアブラムシ対策
越冬栽培の場合、基本的に結束作業を行います。結束前のアブラムシの防除は必ず行ってください。結束後の防除では十分な効果が見込めません。
- ② 適期収穫の難しさ
ハクサイの越冬どり栽培は、定植から収穫までが特に長期にわたるため、生育期間中の温度や雨の影響を最も受けやすい作型と言えます。品種の特性(特に低温結球力)に合わせた定植時期を守ることが、天候に左右されない安定出荷に繋がります。また、2月以降の収穫を目指す圃場は、結束頃(12月)から定期的に「試し切り」を行い、圃場毎に生育の進み具合をチェックしてください。

■計画出荷のための備え■

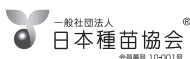
- ① 11月以降が厳寒条件になった場合(生育遅れ、重量不足への備え)
温度が低下して肥効が鈍くなる12月上旬頃までに追肥、葉面散布で生育を促進し、少なくとも結束できる状態(締まり具合)にしておきます。
- ② 11月以降が暖冬条件になった場合(生育前進化、過熟化への備え)
通常の生育をしていれば、過剰な追肥(結束以降など)は避けてください。
「試し切り」を定期的に行い、出荷計画を見直しましょう。「球内部の締まり具合」の他、「生理障害の発生程度」や「芯の高さ」によって、収穫する圃場の順番を判断します。

■「芯腐れ」を出さないために■

- ① ハクサイの根が良く張るような土作り、苗作り
排水性、肥効の持続性が優れる土作りをし、定植適期苗を植えることで根の活着、根量の増加を促しましょう。
- ② バランスのとれた施肥設計
カルシウムの吸収が阻害されるような極端な施肥設計(特に窒素、カリ成分過剰)はやめましょう。
- ③ 収穫適期の見極め
「芯腐れ」は、特に過熟時(暖冬年)に発生が多いので、生育の様子に注意しながら、過熟になりすぎる前に収穫しましょう。
- ④ 根傷みを起こした場合の対策
定期的な葉面散布剤の使用が効果的です。

カネコ種苗株式会社

〒371-8503 前橋市古市町1-50-12
TEL. 027(251)1611(代)



取扱店